

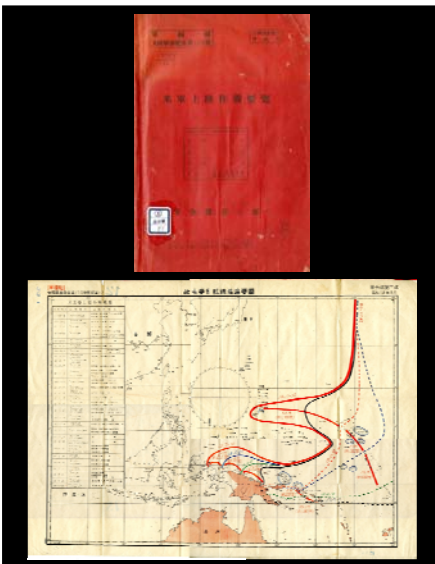
平成26年度も、各都道府県出身の陸海軍将官の中から毎号一人を取り上げて、戦史研究センター史料室が所蔵するその人物などに関連する史料を紹介しています。

《 ^{やの ひでお} 矢野 英雄 1894～1944年 》
—香川県出身の海軍中将—



第三段作戦戦備計画資料綴 (登録番号：①-軍備軍縮-285)

矢野英雄中将は、大正4年12月、海軍兵学校(43期)を卒業後、長門艦長、軍令部第3部長、中部太平洋方面艦隊参謀長などの要職を歴任しました。この史料は矢野少将が軍令部第3部長のとき、軍令部と海軍省の各部局が参加して2度に亘って開催した第9回大本営海軍戦備考査部会議の会議資料をまとめた「第三段作戦戦備計画資料綴」です。これによれば軍令部は、第1次会議(昭和18年8月11日)で「陸海軍省部協力シテ(中略)戦局ノ急迫ニ即応スル戦備ヲ画期的ニ促進ス」という「第三段作戦ニ応ズル戦備方針」に基づき、人的・物的軍備の整備、新兵器の研究開発などを海軍省に要望しています。しかし第2次会議(同年9月20日頃)で海軍省が回答した「第三段作戦ニ応ズル各部局ノ戦備実行方針及実施上ノ見透」は、いずれも厳しいものでした。



米軍上陸作戦要覧 (登録番号：⑧-連合軍-27)

昭和19年3月4日、軍令部第3部長から中部太平洋方面艦隊(司令長官：南雲忠一中将)の参謀長に転じた矢野少将は、サイパン島の司令部に着任、6月15日からの米軍の進攻に際しては陸上部隊として戦いましたが、7月6日、南雲司令長官とともに戦死しました(同日中将に進級)。その後、軍令部から戦隊司令部以上の関係各部に配布されたこの史料は、米軍の昭和18年5月12日のアッツ島上陸からサイパン島を含むマリアナ諸島上陸までの「既往ノ作戦事例及其ノ他ノ諸情報ヲ摘録シ且敵作戦ノ企図判断並ニ我作戦実施ニ関連アル諸資料ヲ輯録」した「米軍上陸作戦要覧」(昭和19年8月20日調製)です。「軍極秘」と記されたこの史料は、島嶼作戦における米軍の兵力・編制及び作戦要領等について、軍令部が当時どのように判断していたかを知ることができる貴重な史料です。

《お知らせ》

史料保存のためのマイクロ撮影にともない、一時的に閲覧できない史料があります。

詳しくは、防研ウェブサイト「閲覧が一時不能となる史料」をご覧ください。

※ 記事に関する御意見、御質問等は下記へお寄せ下さい。なお、記事の無断転載・複製はお断りします。
防衛研究所企画部企画調整課

専用線：8-67-6522、6588 (史料紹介コーナーのみ6668)

外線：03-3713-5912

FAX：03-3713-6149

※ 防衛研究所ウェブサイト：<http://www.nids.go.jp>